

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100683
法人名	特定・特別医療法人 明和会医療福祉センター
事業所名	グループホーム オータムハウス
訪問調査日	平成19年 3月17日
評価確定日	平成19年 4月 3日
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170100683		
法人名	特定・特別医療法人 明和会医療福祉センター		
事業所名	グループホーム オータムハウス		
所在地 (電話番号)	鳥取県鳥取市覚寺51-5 (電話)0857-25-1511		

評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成19年3月17日	評価確定日	平成19年4月3日

【情報提供票より】(19年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年10月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.6人

(2)建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄 骨 造 り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	渡辺病院 ウェルフェア北園渡辺病院 横浜内科医院 ひろ歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥取市の中心市街地の北東側に位置する住宅密集地と商業施設等が集まる利便性が高くにぎやかな場所に位置しており、採光を多く取り入れ、施設全体が明るい単独型のホームである。設立して6年目になるが、職員の移動は少なく、管理者は設立当初から一貫しており、認知症介護の経験も10年以上と職員にはベテランが多い。毎日の階段上りの実施等で健康にも充分配慮しており、利用者の生活意欲も旺盛である。運営推進会議も定期的に実施されており、参加者の活発な意見もある。地元小学校や幼稚園自治会、商店との交流も常時多くあり、地域と密着したホームになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1. 簡易後計画の見直し</p> <p>状態変化のない利用者に対しても3ヶ月に1回の見直しを必ず行い又随時の見直しを行うという改善計画は月に1回のスタッフ会議でアセスメントを実施することで毎月見直しが行われ、医師の指示が出た利用者には介護計画の見直しが即時に行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回実施した自己評価は全員参加の態勢で取り組んでおり、ケアスタッフ会議でも全員で検討しており、すべての職員が毎日のミーティング等を通して評価の意義を充分理解し、改善計画を立案して目標を明確にすることで日々のケアに役立てている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議も定期的に行われている。会議を通して地域とのコミュニケーションが図られており、有意義な意見の取り入れや認知症に対する啓発も行われている。討議内容は主に施設側の施設内部の説明、介護内容の説明等が丁寧に行われており、参加メンバーからも施設に対する疑問質問が多く出されており、その意見を参考にした施設運営を行って、より地域に密着したホームになっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>平均して1週間に4~5組の利用者家族の来訪があり、ご家族の来訪時には職員と気軽に話せるように職員の方から話しかけたりして、来訪しやすく、話しかけやすい雰囲気作りを心がけている。ご家族への報告は毎月手紙にその時々様子を書いてお届けしている。苦情を言っても不利にならない事も手紙に書いて周知して意見をお願いしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会へ加入しており、自治会のサークル活動への参加や地元小学校の運動会への招待もあり、又近隣に商店が多いという立地もあり、商店等ともなじみの関係が築かれており、色々な便宜を図ってもらっている。又ボランティアの受け入れも積極的に行っており、銭太鼓、ハーモニカ演奏等々で利用者を楽しんでもらい生活の糧となっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者の安心と尊厳、自信のもてる暮らしの支援、又地域住民との交流の中での介護、機能訓練を理念に掲げている。日々のミーティングでは職員に日常的に理念をより具体化した形で伝え、日常のケアに活かせるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員同士が理念を共有するために分かりやすい場所に理念を掲示しており、理念をより具体化した形で利用者と職員双方がゆっくり、一緒に、楽しくを目標にグループケアがスムーズに行われるようにしている。職員の言葉かけはゆっくりとその人だけにわかるように話しかけており、一緒に行うという態度にも理念の共有が表れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元幼稚園、小学校、自治会等との交流を積極的におこなっており、運動会、敬老会、子ども会等々の行事での交流を深めて獅子舞等の演技も披露してもらっている。又近隣のグループホームにも広報誌を届けたり、見学をさせてもらったりして交流をしている。選挙の投票にも出かけて社会的な活動も支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員共に改善意欲は強く今回の自己評価も職員全員で取り組んでおり、前回の外部評価での要改善事項もすべて改善計画が具体的に立案され、期間も定められている。改善計画内容の進行状況に対する自己評価も実施されており、スタッフ会議等を通して、職員全員へ徹底して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は法人内の他のグループホームと合同で開催されており、参加者は利用者、利用者家族、地元自治会長、市議員、市役所職員等々のメンバーであり、施設長、管理者と共に理事長の参加も毎回あり、運営推進会議への期待と情熱が伺われる。管理者は会議で出された意見を参考に具体的に地域と取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長及び管理者は鳥取市の担当者の氏名は把握しており、グループホームのパンフレットや広報誌を届けて担当者とも懇談して意思の疎通を図っている。問題解決の参考として話したことはあるが、最近は相談するほどの大きな問題は生じていないが、問題発生時の相談体制は整っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と同封する形でご家族に宛てた手紙を同封して一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、金銭出納の写し等を細かく報告しており、又広報誌には写真も掲載しており、施設全体の動きも良く分かるようにしている。今回のご家族へのアンケートでも日々様子が細かく記入されていることに感謝をしていることが確認		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への毎月の報告書に意見、要望を多く出しているために、苦情を言っても不利にならないことの記載をしており、より多くの意見の聴取に努めている。又家族会も組織し毎年開催しており、又ご意見箱も見やすい場所に設置しており、利用者及びご家族の声を大切にする姿勢が見られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は非常に少なく管理者は平成13年の開設以来交代していない。過去移動があった場合は少なくとも1ヶ月くらいの引継ぎ期間をとり、徐々に利用者に親しんでから交代するようにしてダメージの排除に努めている。又職員の移動が重ならないように移動の時期をずらす等の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を新入、ミドル、シニアと経験年数に応じて分け、それぞれに合わせた研修計画を立案し年間の研修を実施している。職員は20代が40%となっているが、経験年数は4年以上のベテランが多い配置になっており職員の認知症ケアの平均経験年数は5.6年となっている。研修にも公休日を利用しての参加もありOJTでの指導もある		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加盟し、近隣のグループホームとも相互訪問や情報交換を年間に数回行っている。グループホーム協会が主催する相互研修会にも毎年参加して、他のグループホームの取り組みを学習している。又近隣のグループホームには利用者、職員が一緒に訪問してお互いの長所を吸収するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にスタッフが本人や家族と話し合いを行い、施設の見学をしてもらって設備面や現在の利用者の状況等を説明し、今までの生活が継続できるように支援している。入居までに施設の中で一緒にお茶を飲んだり、デイサービスを利用してもらったりして、なるべく早くなじめるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者の方針である「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を職員が心がけて、利用者の日々の楽しみや不安を理解してさりげないかかわりの中で臨機応変なケアに努めている。又買い物等の場面でも男性はカートを押したりとそれぞれの役割ができており、行事等においても利用者から学ぶことが多々あり、お互いの関係を築いて		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしい生活が続けられるように職員は日々のケアの中での会話、家族との話から本人の望む暮らし方を把握し、スタッフ会議等で一人ひとりについて検討して、利用者が望む暮らしが出来るようにチームとして努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりをよく知るために担当者制を取り入れており、センター方式のアセスメントシートを活用して一人ひとりの暮らし方の希望や要望を細かなところまで汲み取るように配慮している。担当者がご家族と話し合っ過去に生活暦や暮らし方の情報を集め、その人に合った介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに立てられている。毎月のスタッフ会議の中でアセスメントを行い、一人ひとりの利用者ごとに介護計画を見直す作業をしている。その際現実、事実を正確に把握し、その時々の可能性のある事を伸ばすようにして、生活に広がりを持つ介護計画に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定認知症対応型通所介護及び医療連携体制加算等の指定を受けているので、通所サービスを実施して在宅の認知症高齢者に対応している。又医療連携体制加算の指定においては看護師を常勤体制としており、医療措置を受けながらの生活の介護等に当たれるような仕組みを作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族とも話をして本人が今までかかって来た医師をかかりつけ医とする事を基本にしており、受診時にはご家族の付き添いを原則としているが、受診結果等の情報は教えてもらい本人、ご家族、職員が共有することが出来るようにしている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族との話し合いの中で早期から関係者間の意思の疎通を図り、重度化した場合の対応を検討している。バイタルチェックを毎日行い、日常の健康管理に留意しており、急変時にはすみやかに対応できるようにご家族とも緊密に連携を行っている。重度化した場合には法人全体として取り組むシステムがあり、現に機能している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や介助が必要な場合は本人だけに分かるように小さな声で言葉かけを行い、身体介助が必要な場合は居室で行うなどプライバシーの保護には細心の注意をはらっている。不要書類で利用者の記名のあるものはシュレッダー処理をし、又フロッピーディスク等での資料の施設外への持ち出しはすべて禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者との会話の中で利用者が考えている、望んでいることを聞き出してそれが実現出来るように支援している。朝昼晩の食事を生活のリズムにして利用者の生活のペースを守り、職員のペースではなく利用者のペースに合わせた支援が出来るように職員間の申し送りを行い意思の疎通を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは利用者の意見を取り入れて作られており、その上にいちごや菜の花等の季節感のある食材を使っている。又や暦の上での行事等が表れたさくらもちやちらし寿司等のメニューを工夫して見当識の改善を図るようにしている。職員は利用者と一緒に細かなケアをしながら準備、食事、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数、時間に制限はなく、利用者の生活習慣や希望に沿って自由に設定している。一人ひとりにゆっくり入ってもらうことを優先にしており、自分で出来る事は自分でしてもらうようにしている。入浴しない人には下着交換等のケアを行い清潔を保つようにしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間の行事予定を立ててその季節に合った節分、ひなまつり等の行事を取り入れ、日々の生活がマンネリにならないように工夫をしている。アセスメントシートにご家族からのヒアリングを通して利用者の生活歴、楽しみ等の情報を蓄積しており、買い物、食事準備、片付け等、得意な事や楽しみが発揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物は毎日近所のスーパーに交代で2人ずつスタッフと共に出かけている。天気の良い日にはほとんど毎日ドライブをして各種イベントや公園にでかけている。ホームセンターや大型スーパー、それぞれのなじみの場所などにも立ち寄り、買い物をしたり見学をして五感に刺激を与えてストレスの低減に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間には施錠しているが日中は事故防止上やむを得ない場合、入浴介助等で職員の目が行き届かない場合以外は開錠している。すべての職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しているが、施設の前には幹線道路があり、立地的な危険性を考慮して細かくケアしている。外出者には無理に止めずにさりげなく声かけをし		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者も参加しての消火訓練を定期的に行っており、夜間の避難訓練や火災報知器の操作、連絡手順等実践的な訓練を重点的に行っている。災害時の備品、非常食は法人として準備しており、法人施設との距離も近いので、緊急時には対応できる態勢が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは時々ではあるが栄養士にチェックしてもらって指示がある場合は指示に従っている。水分量が不足しがちな利用者には個別にチェック表を作成して対応している。利用者ごとに好みの飲み物を提供し、栄養と水分量のバランスのある摂取に努めている。	○	食事における日々のカロリー把握が必要だが、現在のメニューにはカロリー表示がなく、水分量の把握も不足しがちな利用者のみに限られているため、食事ごとのカロリーの把握を行うと共に利用者全員の水分量を把握して記録することが必要と思う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔であり、薄い茶系の色使いが多く暖かな空間作りになっている。床暖房がされたリビングにはソファがあり、それぞれの居室の前の廊下には個別の椅子が設置してあり、二階の和室にはコタツも設置してそれぞれが思い思いの場所で居心地よく過ごせる工夫がある。又季節ごとに壁面の装飾を変えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室はフラインジャーが保たれる構造になっており、なじみの物がそれぞれに多く持ち込まれている。ぬいぐるみ作りの講師をしていた方の部屋には当時の作品が飾ってあり、和室が好みの方の部屋には畳のカーペットが敷いてあり、好みの本やアルバムが持ち込まれて、それぞれの居室がなじみの空間になっている。		